

四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会（第1回）

議事要旨

日 時：令和4年3月22日（火） 15時30分～17時25分
場 所：四日市商工会議所3階大会議室（WEB併用）
公 開：3.議事②「四日市コンビナートの現状と課題について」まで公開 傍聴者2名
出席者：参加者名簿のとおり
資 料：次第、名簿、座席表
資料1 設置要綱
資料2 ヒアリング結果を踏まえた四日市の現状
資料3 本検討委員会について
平野委員説明資料（コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた四日市の現状と課題）

1. 開会

2. あいさつ

①三重県知事

お忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。まずこの会議の主旨については、このような会議を開こうと考え、森市長と話ししたところ同じ考えだったので、県と四日市市と一緒に開催することになった。

大きく2つの動きがある。一つ目は、カーボンニュートラルの動き。日本だけでなく世界の大きな動きに対して、四日市の根幹をなすコンビナートをどうしていくかが大きな課題だと考えている。

もう一つは、県にとって歓迎すべきことだが、交通網が整備されてきたこと。どんどん道路交通も発達して、また、鉄道では、2037年にリニア駅が県内にできる。昔は東海道により発展したが、過去には新幹線も高速なども三重県内を通っていなかったが、これから交通網が発達し、三重県は成長回廊の一角を占めることができる。日本にコンビナートがいくつかあるが、四日市のようにこんなに地の利のあるところはないと考えている。

大きな2つの流れのなかで、三重県を支えているコンビナートのあり方を議論しないといけない。皆さん一同に会して、話をする場を開くのが重要であり、これがこの会議を市長と一緒に開いた主旨である。そのような中でも忘れてはいけないことがあり、ロシアのウクライナ侵攻、11年前の東日本大震災、戦災、天災などが起こっているが、公害は決して風化してはいけないと考えている。今年が四日市公害裁判の判決50年であり、そのこともしっかりと考えて議論していく必要がある。歴史をふまえて、次の四日市市、三重県、産業を考えていかないといけない。皆様には実りある議論をお願いしたい。

②四日市市長挨拶

この会議に参画いただき感謝申し上げます。この会議は、県と市がともに手を取り、首長が前に出て会議をやっという強い思いで立ち上げた。コンビナート関係、エネルギー関係の企業、国、県、市、多くの関係者に参加いただいております、コンビナートに対する本気度を全国に示していきたい。本市コンビナートは、四日市コンビナート先進化検討会を立ち上げ、いかに地域の競争力を高めていけるかを議論し、プラントにおいてドローンやバイタルセンサーなどを全国でも先駆けて導入出来ており、一定の評価をいただいている。

カーボンニュートラルは、非常に大きい課題だと考えている。各企業においては、この潮流に乗り遅れないよう投資しなければという危機感を抱いていると認識している。一方で企業の枠を超えたこのエリアとして、いかにこれをチャンスとしてもものにできるかが重要であり、各企業で進めるところと横との連携、物理的なものだけでなく、人とのつながりも合わせて、全力でカーボンニュートラルの取組みを進めていきたい。本日は、3名の大学の先生が参画してもらっており、四日市の独自色を出せるよう助言を頂ければありがたい。2050年カーボンニュートラルの実現と四日市コンビナートから先駆的な取組みをして存在感を発揮し、産業競争力を高めるという大きな目標を達成していきたい。企業の垣根を越えて、新しい段階に一步進められるような検討会にしたいので、よろしくお願ひしたい。

③参加者自己紹介

- ・各委員、オブザーバーよりそれぞれ自己紹介が行われた。

3. 議事

①四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会設置要綱

- ・事務局より、資料1に基づき本委員会の設置要綱について説明。
- ・会長を一見知事、委員長を森市長とすることに決定。

②四日市コンビナートの現状と課題について

- ・平野委員よりコンビナートのカーボンニュートラルに向けた四日市の現状と課題について説明

③意見交換

- ・事務局より、資料2、資料3に基づきヒアリング結果を踏まえた四日市の現状と本検討委員会の方向性等について説明。
- ・事務局からの提案等に対し、意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。
 - ▶ 資料1にある設置要綱の第8条が非常に重要な位置づけであり、本気で取り組んでいく人たちによる部会の活動がこの委員会を下支えしていくと思う。企業の情報もちよっと隣を見ると気付かないプロセス、システムなどあるので、そういうものを気づけるきっかけづくりを部会で出来ればと思う。
 - ▶ 具体的な案件が出てきたところだけが優遇されることがあってもいいと思っており、ファーストペンギンに対しては行政からしっかりと支援があってもいいのではないかと。企業もサポートがあるからではなく、将来的には自立が必要なため、しっかり出だしをサポートする取組みを進めてもらいたい。
 - ▶ カーボンニュートラルでは、ケミカルリサイクルも含め供給側と受け手側の逆転現象など新たに起こりうる。

- ▶ 石炭から石油、天然ガスに代わる時など、これまでも危機的状況をブレイクスルーしてきた歴史がある。やるかやらないかではなく、やるの一択だと考えている。
- ▶ ヒアリングなどの結果では、更なる再エネの導入を促進するには事業用地の限界があるとの意見があったが、メガソーラーだと更地がいるが、建物の屋上や側面などが利用できる。
- ▶ 企業間連携なども今までの延長で考えたらできないとなるが、心に余裕をもって違う視点を入れることによって解決に至るのではないか。
- ▶ この会でやるべきことは具体的な取組みを早く作る、それを早く国に伝える、考えていることを国の支援ベースに入れるということ。
- ▶ カーボンニュートラルに関しては、国の支援がそれなりに付いていく、そして、支援は特定の地域に集中していくと思われる。早い者勝ちとなる側面もあるので、早く案件を作って、伝えて、動かしてかないといけない。
- ▶ 経済性がないのは当然のことで、経済性は後でついてくると考えて構わない。LNGも価格が石油の2倍だったが、後で経済性がついてくる形となった。まずは取り組んでみて、規模を大きくしていく、そして経済性がなくても評価される仕組みを作っていくことが大事。
- ▶ 脱炭素を目指すのだが、低炭素の取組みであっても、足元の動きをしっかりと議論し、支援していくことが重要。低炭素の取組みであっても、まず案件を作って実績を積み上げていくべきだと思う。
- ▶ 今回の話で、CO₂フリーエネルギーが話題にでていますが、規模や技術的な点から一社では導入が難しい。現在高価なので、エネルギーとして利用するには大幅なコストダウンが必要。
- ▶ ケミカルリサイクルを実用化するためには、東海地区における四日市を中心としたプラスチックのリサイクルチェーンの構築や原料面の確保、回収CO₂の共同利活用の検討を実施するのも有効かと思う。
- ▶ 部会の方向性については、全員で話をしても進めないなので、エネルギー分野、マテリアル分野に分かれて、小さくまとまって話すほうが、議論が深まる。

・意見交換の内容について、以下のとおりコメントがあった。

三重県知事：

まとめを二点お話ししたい。

一番目は、四日市という地を活かさない手はないと感じた。交通も便利になってくると申し上げたが、先月カーボンニュートラルに関する三県知事会議をしたとき、カーボンニュートラルはやらないといけないと皆が認識していた。名古屋港では、水素に関してエネルギーをもって動いている。それを四日市も使わない手はない。

二番目は、この会議を母体としていろいろ働きかけていくことが重要だということ。先日、国に行き、四日市でやりたいことを話したら興味持ってくれた。今後も色々な人脈を使って働きかけていく。

中部経済産業局長：

四日市コンビナートが大きな熱意をもってカーボンニュートラルに取り組んでいこうとしていることを我々としてもできるだけ発信、サポートしていきたい。委員の方からご発言のあったような具体的な取組を動かしていければより理解されやすくなると思う。

中部地方整備局長：

この地からゲームチェンジャーが出るくらいの気持ちでやっていただきたい。国交省としては、インフラ整備、道路、減災、まちづくりなどやっているが、セメントや鋼材などの調達も支えていく。インフラ整備で何かできないかという一つの考えとして、カーボンニュートラルポートがあるが、それも道具なので、どう使って進めていくのが大事であり、民間の皆さんの取組にもかかっている。四日市の付加価値額も伸びているとの話があったが、コンビナートでも努力をされて、付加価値の高い仕事をしてきたからであり、その歴史を踏まえると今後も対応できると思う。国交省としても、いかに使いやすいか、付加価値を付けられるかの点で、ものづくりを通したコトづくりを、しっかりサポートしていきたい。

- ・部会立ち上げの提案があったため、部会の設置について諮ったところ、異議なしであったため、部会の設置について承認された。

- ・閉会にあたり、市長、知事より以下のとおり挨拶を行った。

四日市市長：

各論でしていかないとできないことも多い。トップの方が参画してもらい、皆さんの知見経験を活かして、ここで吸い上げていきたい。ゴールは見えているが、プロセスが見えていないので、市で作り上げていきたい。2050年がぼんやりと見えてきた。この地域として発信できるものをしっかりと形にしていきたいので、ご協力いただきたい。

三重県知事：

ダーウィンの言葉より、最後まで生き残るのはよく変化できるものが生き残るとある。なぜ我々力の弱い人類が強くなったのか、それはみんなで協力してやってきたからだと思う。本日お集りの皆さんと力を併せて、四日市を日本のリーディングケースとしていきたい。